

統計数理研究所言語系共同研究グループ 2016年度夏季合同研究発表会



日時：2016年8月29日（月）10:00～30日（火）14:20

会場：神戸大学六甲台第1キャンパス プレゼンテーションホール（〒657-0013 神戸市灘区六甲台町1-1 Tel 078-881-1212）

事務局・問合先：神戸大学大学教育推進機構 石川慎一郎研究室 iskwsin@gmail.com

【8月29日 Day 1】

1025	1030				開会
1030	1050	浅野 元子	大阪大学M	医学論文の言語的特徴についてのコーパス研究: ESPと国際英語としての探索	日本の理系研究者が指すべき学術論文の英語についての探索の一環として、著名な医学誌であるthe New England Journal of Medicineに掲載された日本と米国の研究論文における言語的特徴を国際英語の多様性及び統一性の観点から量的質的に検討する。研究論文テキストをコーパス化し、頻度上位語を対象に分析を試みる。考察部分についてESPのムーブ分析を行い、論理の流れを検討し、各ムーブにおける表現的特徴を明らかにしたい。
1050	1110	石川 有香	名古屋工業大学	工学系大学生の英語語彙学習方略の指向性と学習者の特性	工学系大学生の専攻、学年、留学経験、英語学習の動機やコース、英語学習態度など、学習者の特定と、英語語彙学習を行う際に使用する方略との関係を明らかにするために、質問紙調査を行った。本発表では、初年次学生に焦点をあてる。
1110	1130	藤枝 美穂	京都医療科学大学	医療系ESP語彙テストの開発	医療系ESPコーパスから抽出した重要語句をターゲットとした語彙テストの開発とパイロットテスト結果の分析。項目分析とテストの適性について発表する。
1130	1150	井上 聡	環太平洋大学	教授法と認知スタイルの関係	学生の教授法への親密度を順序尺度として分析し、検定を試みる。
1150	1230				昼食休憩（学内食堂をご利用ください）
1230	1250	八野 幸子	帝塚山学院大学	自己表現活動のための語彙に関する研究	学習者が、自分の興味などについて、作文等の自己表現活動を行う時に役立つと考えられる語彙をCorpus of Global Web Englishを用いて調査する。
1250	1310	石川 慎一郎	神戸大	3つの作文評価法：ばらつきが小さく精度が高いのはどれか	L2作文の評価に関して、（1）5名の評者がルーブリックに基づいて直接評価した場合、（2）5人の校閲者が校閲を行い、加えられた校訂の量を評価した場合、（3）5つの母語話者作文を用意し、それらと比較して語彙頻度の差（特微度）を計量した場合において、評価者間のばらつきが小さく、被評価者間でのばらつきが大きくなるものがどれかを検討する。データとして、現在発表者が開発中のICNALE-ProofreadのCalibrationデータセットを使用する。
1310	1330	今尾 康裕	大阪大	bi-gram 分析の可能性を探ってみる	TBA
1330	1350	中西 淳	神戸大M	作文中の前置詞頻度に着目した学習者の学年・英語総合力・英語圏滞在期間の推定：単回帰分析と重回帰分析を用いて	前置詞の頻度を単回帰分析・重回帰分析し、学年・英語総合力・英語圏滞在期間を推定できるか検証する。
1350	1355				休憩
1355	1415	木村 哲夫	新潟青陵大学	目標正答率を調整するCATシステムの改良	ラッシュモデに基づき、Moodle上でアダプティブに項目を出題する仕組みを開発してきた。これまで目標正答率の調整は、テスト全体に対してだけであったが、部分的にも調整できるように改良した。改良の経緯と実装結果について報告する。
1415	1435	小山 由紀江	順天堂大学	英語圏高校教科書の科学技術関連語彙	工学部の学生用一般科学技術語彙の研究を行ってきたが、科学技術専門論文より難度の低いテキストとして英語圏の高校の科学系教科書の予備分析を行ってある程度の適性を検証した。今年度はコーパスの量と種類を増やし、より精確な分析を行う。
1435	1455	高橋 新	大阪大（非）	英語翻訳聖書間の計量的スタイル分析手法の考察と今後の研究視点	本研究では、Covington et al (2015)が「マルコによる福音書」の英語訳間分析をする際に用いた計量的スタイル分析手法を採用し、「ヨハネによる福音書」の英語訳間分析を試みる。本発表では大阪大学における「『電子化言語資料分析研究 2015-2016』プロジェクト」研究会での発表で言及した当該分析手法の課題における考察と今後の研究視点について論ずる。
1455	1515	上阪 彩香	同志社大学	浮世草子作品の電子データについて	これまで西鶴と団水の文章の特徴の把握から遺稿集における両者の文章の識別を試みてきた。現在は、遺稿集以外の質屋本における著者問題の解明をすべく、西鶴、団水と同時代に活躍した作家の浮世草子作品の電子データおよび形態素解析の作業を進めている。本発表では、研究の現状と展望について述べる。
1515	1520				休憩
1520	1540	木山 直毅	大阪大学D	英語の小説などに見られる引用句倒置の観察	英語の小説などで会話の直後に主語と動詞が倒置を起す場合がある（e.g., "xyz" said she）。本発表では、シャローロック・ホームズの全集をコーパスとして使用し使用される動詞を記述する。
1540	1600	森下 裕三	神戸大学	語の多義性に関する質的分析と量的分析のズレについて	英語の go という動詞の多義性について、クラスター分析などを用いた Behavioral Profile と呼ばれる量的分析の結果と理論言語学における質的分析の結果との間に不一致が生じる原因について議論する。
1600	1620	内田 諭	九州大学	状態変化を表す構文における動詞の意味分析	become, get, grow などの状態変化を表す動詞について、対応分析を用いて共起語の傾向の違いを明らかにする。
1620	1640	大谷 直輝	東京外国語大学	spray/load構文に反映される談話機能	本発表では、BNCを用いてspray/load構文の交替を考察することで、内容的意味だけでなく、新・旧情報のような談話的要素も構文の交替を動機づける点を定量的に示す。
1640	1645				休憩
1645	1705	樋田 正暢	北九州市立大学・西南学院	使役・許可に関わる二重目的動詞の意味分析に向けて	使役や許可といった概念と関わりのある二重目的動詞の1つであるallowを中心に分析する計画である。今回はその中間報告としておもに第二目的語の頻度を報告する。
1705	1725	長 加奈子	福岡大学	モノとコト：関係代名詞に焦点を当てて	日本語と英語の事象把握の違いが現れる文法事項に、関係代名詞がある。本発表では、日本語を母語とする英語学習者の関係代名詞の使用について見ていく。
1725	1745	川瀬 義清	西南学院大学	日本語の助詞と構文	日本語は語順が自由であるといわれるが、動詞によりある程度好まれる語順がある。この発表では、日本語のラゲと二格の両方をとる動詞を取り上げ、どの語順が好まれるかについて調査して、頻度による分類を行う。
1745	1755	前田 忠彦	統計数理研究所	講評	
1900	2030				懇親会（神戸メリケンパークオリエンタルホテル）
					【8月30日 Day 2】
930	950	張 晶鑫	神戸大D（研）	段階的变化を含まない「だんだん」及びその類義語の意味機能の解明—現代日本語コーパス分析に基づいて	一元配置分散分析、ダイス係数及びコーレスポネンス分析を用いて、「だんだん」及びその類義語との比較を行いながら、「だんだん」の諸相を探り、中国人日本語学習者のための新しい辞書記述を試みる。
950	1010	中尾 桂子	大妻女子大短大部	転成名詞の分類と構文	転成名詞約80語を構文上の前後の形に基づいてクラスター分析し、差の有無やグループ化の様子を見た。その結果、転んだいくつかの語を因子分析し、詳細を確認してみた。
1010	1030	前浜 知味	神戸大M	中高生のための教育的句動詞リストの開発：統計手法を用いた共起語分類と意味記述の提案	本研究では、句動詞の意味記述に際し、その方法を共起語を統計手法から分類することを目的とする。重要句動詞の共起語上位30語をコーレスポネンス分析を用い、分析することにより、多くある句動詞の意味を3~4個に集約することができた。また、集約された共起語の共通点から意味のラベル付けを行い、かつそのグループがどれくらい用いられているかを割合として算出することによって、学習者にとってどの順で覚えるべきかという情報を付加し、句動詞の意味記述の新たな提案を試みる。
1030	1050	柳 素子	神戸大D	中国語の可能表現の諸相：能/能够の差異の解明について	本研究では、中国語における可能を表す2つの動詞(能/能够)について、コーパスを用いて頻度・使用ジャンル・共起語を計量的に解析し(手法:コーレスポネンス分析等)、2語の差異の解明を目指す。
1050	1055				休憩
1055	1115	Bor Hodošček	大阪大学	日本語作文推敲支援システムのためのウェブベース作文環境の検証	ひのきプロジェクト(hinoki-project.org)では、日本語作文推敲支援システムの基盤となる新APIを使用したウェブベースの作文環境を構築している。新APIでは単語および係り受け関係にもとづいた共起表現の検索機能、またはそれらのジャンル分布情報提示、例文検索、意味類似度計算およびトピックの推定機能を提供している。本発表では新APIをもとに作られた検索およびフィードバック機能の有効性を検証すべく、作文の編集、検索、フィードバック履歴を記録・分析する仕組みについて説明し、少人数の実験にもとづいて機能の評価を行う。
1115	1135	三宅 真紀	大阪大学	新約聖書写本間における異読距離計算の進捗状況	本発表は、「言語研究と統計2016」で発表した「編集距離による新約聖書正文批判研究の試み-Profile Methodとの比較」で残された問題点の改善に向けた取り組みについて、進捗を報告する。
1135	1155	岩根 久	大阪大学	反ロンサルパンフレットの計量的特徴を探る	宗教競争の勃発期に王権擁護・カトリック的立場で書かれたロンサールの論説詩に対抗してプロテスタント詩人達が出版したパンフレット詩の特色を探索的に明らかにする。主に単語・音節の頻度を起点に、対応分析で可視化する手法を用いる。
1155	1215	田畑 智司	大阪大学	Body part expressionsを通して見るfictionの言語	TBA
1215	1220				休憩
1220	1240	前田 忠彦	統計数理研究所	方言の使用をめぐる話者類型	本研究は、日本人の方言使用をめぐる意識について2010年に行われた面接調査、2015年に行われたウェブ調査のデータを用い、潜在クラス分析により得た話者類型とそれに対する説明要因について検討する。
1240	1250	前田 忠彦	統計数理研究所	講評	
1250	1340				昼食休憩（自由解散）
1340	1420	前田 忠彦	統計数理研究所	ISM人文学オープンデータ共同利用センター開所について（自由討議）	
					※聴講参加希望の方は、8月20日までに事務局までメールでご連絡ください。